

# 学校法人同朋学園 平成 20 年度事業報告書

## 第 1 章 学園の概況

### 1 学園の理念・沿革

本学園は、親鸞聖人の教えに基づく同朋精神と聖徳太子の和敬の精神の実践を建学の精神として掲げ、創設以来、その精神にのっとり学術を真に生かすことのできる人間形成を主眼として、真理を探究し、共に生きるいのちに目覚め、人類すべてに貢献できる豊かな人間性を持った社会人の育成に努めてまいりました。

歴史的には、現在の真宗大谷派名古屋別院敷地内に 1827(文政 10)年に設立された経典研究施設「閲蔵長屋」を母体に、1921(大正 10)年、宗門子弟の養成を目的として設立された「真宗専門学校」を出発点としています。その後、1950(昭和 25)年には新制大学令により「東海同朋大学」を設置(現「同朋大学」)、以来「名古屋音楽大学」・「名古屋造形芸術大学」・「名古屋造形芸術大学短期大学部」・「同朋高等学校」・「同朋大学附属同朋幼稚園(平成 18 年 4 月名称変更)」の各機関を設立してまいりました。

順調に推移して来た各教育機関も、少子化の伸展と有名大学の学部学科新設や定員増が災いして、志願者の漸減状況が続きました。その間、本学園でも、各機関の拡充のために様々な施策を実施し、適切な教育研究を展開するに足る学園運営に努めてまいりましたが、名古屋造形芸術大学短期大学部は平成 19 年度に募集停止し、名古屋造形大学へ統合することとなりました。40 余年の歴史を誇る短期大学部の募集停止ですが、短期大学部の歴史と願いを名古屋造形大学が引き受けて、いっそう力強く大学改革に邁進してまいります。(現在は数名の留年在籍者がおり、『閉校』手続きを猶予している状況です。)

本学園の教育機関として、「3 大学・1 高等学校・1 幼稚園」を設置する総合学園としての「同朋学園」は、社会的にも認知され、期待されるまでに成長を遂げることが出来ました。

### 2 学園の設置する機関と学部・学科等の構成

#### (1) 同朋大学(S25.2.20 東海同朋大学設置認可)

大 学 院	文学研究科(博士前期・後期課程)[仏教文化専攻] 人間福祉研究科(修士課程) 昼夜開講制
文 学 部	仏教文化学科(真宗学コース・現代仏教コース) 人間文化学科(日本語日本文化コース・国際地域文化コース)
社会福祉学部	社会福祉学科(社会福祉専攻・幼児福祉専攻)
別 科	仏教専修

#### (2) 名古屋音楽大学(S40.1.25 名古屋音楽短期大学設置認可)

大 学 院	音楽研究科(修士課程)[器楽専攻/声楽専攻/作曲専攻/音楽教育学専攻]
音 楽 学 部	音楽学科 ・ ピアノコース ・ 管楽コース

- ・ 弦楽コース
- ・ ギター・マンドリンコース
- ・ 打楽コース
- ・ 邦楽コース
- ・ 声楽コース
- ・ 舞踊・演劇・ミュージカルコース
- ・ 作曲コース
- ・ コンピュータミュージックコース
- ・ 電子オルガンコース
- ・ ジャズ・ポピュラーコース
- ・ 音楽教育コース
- ・ 音楽療法コース
- ・ 音楽総合コース
- ・ 音楽ビジネスコース

**(3) 名古屋造形大学(H元.12.22 設置認可)**

大 学 院 造形研究科(修士課程)[造形表現制作/造形表現構想]

造 形 学 部 造 形 学 科・ 日本画コース

- ・ 洋画コース
- ・ 洋画コース版画クラス
- ・ 彫刻コース
- ・ 先端表現コース・総合造形クラス
- ・ 先端表現コース・映像/アニメーションクラス
- ・ マンガコース
- ・ 視覚伝達デザインコース
- ・ イラストレーションデザインコース
- ・ デジタルメディアデザインコース
- ・ 建築デザインコース
- ・ インテリアデザインコース
- ・ プロダクトデザインコース
- ・ 工芸コース
- ・ ジュエリーデザインコース
- ・ アートプロデュースコース

**(4) 名古屋造形芸術大学短期大学部(S42.3.25 名古屋造形芸術短期大学設置認可)**

造 形 芸 術 科 絵 画 コース

インターメディアコース

ビジュアルデザインコース

(平成 20 年度募集停止)

(5) 同朋高等学校(S33.3.27 東海同朋大学附属高等学校設置認可)

全日制課程 普通科  
商業科  
音楽科

(6) 同朋大学附属同朋幼稚園(S28.11.2 同朋幼稚園設置認可)

満3歳児  
3歳児  
4歳児  
5歳児

3 大学・高校等の収容定員及び現況

(1) 在学生数等(平成20年5月1日学生数)

機関・学部等		学科・専攻等	1年	2年	3年	4年	計
同朋大学	文学部	仏教文化学科	11	18	12	26	67
		日本文学科		1	2	13	16
		人間文化学科	41	46	42	47	176
		学部計	52	65	56	86	259
	社会福祉学部	社会福祉学科	144	180	214	223	761
	二学部計		196	245	270	309	1,020
	大学院	文学研究科博士後期課程	4	2	1		7
		文学研究科博士前期課程	4	6			10
		人間福祉研究科修士課程	7	3			10
	大学院計		15	11	1		27
合計		211	256	271	309	1,047	
別科	仏教専修					33	
名古屋音楽大学	音楽学部	器楽学科			91	116	207
		声楽学科			18	20	38
		作曲学科			17	14	31
		音楽学科			22	23	45
		音楽学科(新)	142	155			297
	学部計		142	155	148	173	618
	大学院	音楽研究科修士課程	27	39			66
合計		169	194	148	173	684	

機関・学部等		学科・専攻等	1年	2年	3年	4年	計
名古屋造形大学	造形芸術学部	美術学科	5	64	56	72	197
		デザイン学科	2	171	126	144	443
		造形学科(新)	250				250
		学部計	257	235	182	216	890
	大学院	造形研究科修士課程	9	18			27
合計			266	253	182	216	917
名古屋造形芸術大学短期大学部		造形芸術科		85			85
同朋高等学校	普通科		345	308	251		904
	商業科		111	68	67		246
	音楽科		38	38	31		107
	合計		494	414	349		1,257
同朋大学附属同朋幼稚園			満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
			1	38	34	47	120
総数		4,143人					

(2) 教職員数(平成20年5月1日教職員数)

学校名	専任教員	非常勤講師	合計	本職職員	嘱託職員	非常勤職員	合計
同朋大学	50	101	151	10	15	3	28
名古屋音楽大学	32	142	174	10	13	15	38
名古屋造形芸術大学	38	149	187	11	27	18	56
名古屋造形芸術大学短期大学部	7	24	31	5	9	1	15
同朋高等学校	73	47	120	3	5	0	8
同朋大学附属同朋幼稚園	8	0	8	0	1	0	1
その他の機関	—	—	—	24	13	2	39
合計	208	463	671	63	83	39	185

(3) 定員(入学定員・編入学定員・収容定員)(平成20年度)

学校名	学部等名	学科等名	入学定員	編入学定員	収容定員
同朋大学	大学院(博士後期課程)	文学研究科	2	—	6
	大学院(博士前期課程)		5	—	10
	大学院(修士課程)	人間福祉研究科	8	—	16
	文学部	仏教文化学科	30	0	120
		人間文化学科	70	0	280
	社会福祉学部	社会福祉学科	190	10	780
	別科	仏教専修	30	—	30
合計			335	10	1,242

学校名	学部等名	学科等名	入学定員	編入学定員	収容定員
名古屋音楽大学	大学院(修士課程)	音楽研究科	18	—	36
	音楽学部	音楽学科	180	0	720
	合計		198	0	756
名古屋造形大学	大学院(修士課程)	造形研究科	10	—	20
	造形学部	造形学科	260	0	1,040
	合計		270	0	1,060
名古屋造形芸術大学短期大学部		造形芸術科	—	—	80
同朋高等学校	全日制課程	普通科	320	—	960
		商業科	80	—	240
		音楽科	30	—	90
	合計		430	—	1,290
同朋大学附属同朋幼稚園			50	—	150
総数	4,578人				

## 第2章 学園の事業概要

### 1 学園の主な事業と改革

学園の各大学の状況は年を追うごとに厳しくなっていますが、それぞれの大学が受験生に「選ばれる大学」へと進むべく、学園の整備計画を進めています。

平成17年度のDoプラザ開蔵の完成、平成18年度の学園本部事務局・学園厚生部の移転に引き続き、平成19年度からは「名古屋キャンパス第二次整備計画」がスタートしました。平成18年10月開催の臨時理事会において計画が承認された「名古屋キャンパス第二次整備計画」は、全体を5つの工期にわけ、総工費34億円、平成23年度までの約5年の工期を費やして実施される一大事業で、耐震補強の必要な建物や建築年数の経過した古い建物等を一斉に建て替えようというものです。旧食堂棟の解体、F号館への仮設食堂設置を皮切りに、同朋大学・名古屋音楽大学合同の校舎「博聞館」の工事が、平成20年秋に竣工。名古屋音楽大学では、平成21年1月に竣工記念演奏会を実施しました。また、小牧キャンパスでは平成19年度に学生ホール（食堂棟）を改修。平成20年度には「ギャラリー棟」が竣工しました。加えて、以下に述べるとおり小牧キャンパスから名古屋造形大学が名古屋キャンパスに移動・合併を遂げることが理事会決定されたことを受けて、「第二次整備事業」の一部計画見直しを実施。小体育館と同朋大学新館B（仮称）の建築を白紙撤回し、そこに建築する2棟の校舎を、名古屋造形大学の名古屋への移動を担保する「造形実技を中心に据えた建築」としての建設原案作成に至急、取り掛かることと致しました。

もう一つの重要な改革として、平成24年度開学に向け同朋大学・名古屋音楽大学・名古屋造形大学の「三大学を統合」があります。平成18年12月の理事会で文部科学省との相談を含めた検討開始が承認されたことを受けて、平成19年度には三大学統合委員会を発足。約1年間の統合委員会での検討の後、平成20年12月の理事会で、「小牧キャンパスの名古屋造形大学を名古屋キャンパスに統合の上、1人の学長のもと、名実ともに1大学として新大学の設立」が承認されました。

さらに、平成 18 年度 1 年間限定で組織した「同朋学園財政再建問題検討プロジェクト」からの提案を含む多くの改革を、順次実施。中でも、平成 20 年度は「学園ガバナンスの構築と予算・決算改革」と銘打ち、平成 21 年度を含む 2 年間に、総合的な機構改革を実施することと致しました。平成 20 年度はその改革の初年度として、以下の改革を実施しました。

#### (1) 法人本部の機構改革について

平成 20 年 4 月より、同朋学園情報センターを本部事務局下に統合しました。これにより、三大学統合問題も含め、今後の IT 戦略、情報インフラのあり方等について、本部事務局が企画・立案を推進する土壌が作られました。経費の支出にあたっては、情報センターの本来持つ性質から「教育経費支出」が多く、各機関の予算に予め必要経費を計上し、支出等を当該機関按分により処理することとしました。

情報センターの平成 20 年度業務としては、以下の実績が挙げられます。

- ① 情報センター運営委員会規程を改め、必要な事項を協議する委員会との位置づけたこと。
- ② コンピュータ・ソフトウェアの一括管理の実施（マイクロソフト包括ライセンス契約と、セキュリティ対策ソフトの一括購入）。
- ③ 博覧館新築に係る「教室入退室管理システム」（同朋大学）と、「鍵管理システム」、「練習室予約システム」（名古屋音楽大学）等の構築支援。
- ④ 学園事務職員の使用するパソコン等の一括管理。
- ⑤ 教員免許更新講習の実施に係るサーバーの導入とホームページ上の受付ソフト設置支援。

#### (2) ガバナンスの確立と財政改革について

従来から行われてきた学内の予算・決算審議資料と、文部科学省等に提出する「文部三表」（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表）との違いに着目し、学内会議資料を文部三表に近づけるとともに、「理事長と理事会・財務担当理事等の権限の明確化」に係る改革を、平成 20 年度、21 年度の 2 年間かけて実施することとし、本年度はその初年度と位置付け、以下の改革を実施しました。

##### ① 当初予算確定シミュレーションの実施

平成 20 年度当初（4 月）、当初予算に対する学生数、学納金、人事異動による職員人件費等の変動値が確定したことを受け、各機関の収入、支出の確定数値シミュレーションを作成し、常任理事会でその内容について審議しました。

##### ② 理事長、財務担当理事と所属長によるヒアリングの実施

理事長、財務担当理事（事務局長）と各機関の所属長との間で、7 月下旬と 12 月初旬の 2 回にわたり実施しました。

7 月のヒアリングでは主に上記①で作成したシミュレーションを資料とし、当該年度の収支の状況に合った事業計画の変更と次年度学生募集計画等について話し合いました。また、12 月

のヒアリングでは、向こう5年間の「中長期収支計画」と「平成20年度補正予算書(案)」等を資料とし、各機関の財政状況の懸念について、率直な意見を交わしました。

### ③ 内部監査室の設置準備

平成21年度に理事長直轄の「同朋学園内部監査室」を設置することを目的として、設置準備室に非常勤職員を配し、関係規程の制定、他大学における監査室制度の研究等を行い、平成21年度当初からの内部監査室設置に向けての諸準備を実施しました。

### (3) 総合保守管理業務の本格化について

平成18年度下半期から試行導入した「総合保守管理業務」も3年目を迎え、見積り合せによる最低価格提示者である日本管財(株)により、本実施として1年間行いました。上半期は事務協議会終了後等の時間帯を利用して、各機関からの問題点を聞き、コスト削減を図りつつ、総合保守管理がより有効に機能するよう、話し合いを持ちました。

平成20年度の「総合保守管理業務」が概ね良好に推移したことを受け、平成21年度に向けて業界各社から見積り合せを実施。最低価格提示の日本管財(株)へ、平成21～22年度2年間継続して総合保守管理を委託しました。

### (4) 同朋学園名古屋キャンパス第二次整備計画の推進について

平成19年度に工事着工した「第2期工事」は、平成20年度秋に無事「博聞館」竣工を迎え、「第3期工事」へと駒を進めました。第3期工事では同朋大学C号館、同練習棟、名古屋音楽大学B号館、同D号館、同E号館(練習棟)を取壊し、名古屋音楽大学新B棟(仮称)と同朋学園大学食堂、同朋大学附属同朋幼稚園園舎等を新築することとなっており、その準備に取り掛かりました。

当初の計画では、これらの他「同朋大学新B号館」「小体育館」等の建設が予定されていましたが、平成20年12月の理事会において「小牧キャンパスの名古屋造形大学が『造形学部』として名古屋キャンパスに合流した上で、1人の学長のもと1大学に統合する」ことを決議したことから、「同朋大学新B号館」「小体育館」等の建設計画を白紙に戻し、造形学部の受け皿としての建築物について、具体的検討を急ぐこととなりました。

### (5) 教職員評価制度の検討について

平成19年度から初めて採用になった「任期付教員」の制度的必要性(5年間の任期の最終年度に、引き続き更新採用するか否かの判断のための「教員評価」を行うこととされました。)のため、平成19年9月の人事委員会で「評価制度」導入の必要性が説かれたことを端緒に、その制度設計を目的として、平成19年12月に「学校法人同朋学園教員評価制度検討委員会規程」並びに「学校法人同朋学園大学評価制度作業部会規程」が制定され、制度の検討に入りました。

平成20年度に入って、これらの規定に従って作業部会委員を定め、同朋学園大学教員評価検討委員会及びその作業部会を正式に立ち上げ、大学教員評価制度構築の検討に入りました。両者の役割は、作業部会が具体的制度設計構築を受け持ち、その報告を受けて大学教員評価検討委員会(人事委員会構成員による)が判断・決定する、という形で分担され、作業部会は平成20年

5月9日(第1回)を皮切りに、年度末までに10回の作業部会を開催した他、「京都成安学園 成安造形大学」「岡山大学」の教員評価制度実施状況の視察を行うなどして、制度の検討作業を深めました。そして、最終的に「同朋学園 大学教員評価制度実施要項」を定め、平成21年度からの「試行評価」実施に繋がりました。

学園本部としては、学園事務局長が検討委員会並びに作業部会に、また事務主幹が作業部会に参加するとともに、総務部が作業部会の事務を担当し、制度構築に参加しました。

## **(6) 職員研修プログラムの推進について**

職員評価制度とも密接に関連する「職員研修プログラム」も、開始から平成20年度で3年目を迎えました。事務効率向上と人材の活性化を目指し、「初任者研修」「マナー研修」「職位別研修」「個人面談プログラム」等に加え、平成20年度は「職位別研修」を実施し、「問題解決型職員の育成」に資する研修を推進しました。(「管理職研修」「書記研修」「嘱託職員研修」等)

更に、平成20年8月8日に実施した「学園事務職員研修会」では、SD(スタッフ・ディベロップメント)と位置づけ、文部科学省中央教育審議会大学部会が発表したばかりの「学士教育の構築に向けて(中間まとめ)」の学修を軸に、恒例の1日研修会を実施しました。

平成20年度同朋学園事務職員研修会の内容は、次の通りです。

- |                         |    |          |       |
|-------------------------|----|----------|-------|
| ① 講演「裁判員制度の導入について」      | 講師 | 同朋学園理事長  | 小島隆治  |
| ② 講演「学士課程教育の構築に向けて」     | 講師 | 学園アドバイザー | 吉田一郎氏 |
| ③ 講演「職員の健康管理とメタボ対策について」 | 講師 | 学園産業医    | 佐藤孝道氏 |

## **(7) その他の事業について**

### **① 第三者評価への協力**

平成19年度には同朋大学が、日本高等教育評価機構の実施する「第三者評価」を受けました。平成16年4月1日施行で「7年に一度、全ての大学等が必ず受ける」ことが学校教育法で義務付けられており、その期限は平成22年度までです。同朋学園傘下の大学では、名古屋造形大学並びに名古屋音楽大学が、ともに平成21年度に実施を予定しており、学内の大学評価委員会等を中心に準備を開始しました。

本部事務局は機関との協力体制を構築し、「教育研究組織」「事務職員」「管理運営」「施設・設備」「建学の理念」等の部分での自己評価報告書作成を中心に、両大学の大学評価委員会の委員に参加する等、第三者評価に対する適正な対応を行いました。

2大学が「自己評価報告書」及び「データ編」「資料編」を提出するのは、平成21年6月末日、現地調査を受検するのは名古屋音楽大学が平成21年11月4日～5日、名古屋造形大学が平成21年12月2日～3日。平成22年3月末日までに評価結果が学園に通知されると同時に社会に公開され、文部科学大臣に報告される予定です。

### **② 監査法人の変更**

平成19年度決算確定まで同朋学園の監査法人として委託契約してきた「あずさ監査法人」と



の契約満了を契機に、新たに「東海会計社」との監査法人委託契約を締結しました。このことにより、従来の「紋切り型」の提携監査とは違う、経営助言にまで踏み込んだ熱意ある監査が開始されました。監事の役割の重要性が説かれ、一方では「内部監査制度」の準備段階にある平成20年度の「公認会計士改革」は、「監事」「公認会計士」「内部監査室」の三様監査システム構築の実現に、大きな力となりました。

### ③ 防災訓練の実施

平成18年度の学園全体並びに各機関の防災組織規程を整備し、翌平成19年度には、夏期の学園事務職員研修会の機会を利用した「総合防災訓練」を実施する等、防火・防災への関心を高める試みを行ってまいりましたが、平成20年度は「Do プラザ閲蔵」を舞台に、図書館に火災が発生との状況を想定して防災訓練を実施しました。図書館並びに本部事務局職員、日本管財㈱、学園防災センター等を中心に、同朋大学・名古屋音楽大学の図書館在室学生等を含めた訓練で、防火シャッターの降下場所に閲覧機が設置されていること、避難路が複雑であったこと等が判明し、改善に繋げることが出来ました。(平成21年3月24日実施)

### ④ 祖父江前理事長学園葬の厳修

平成20年5月にご逝去された前理事長、祖父江照道氏の学園葬を、学園創立記念日にあたる6月13日、成徳館12階ホールで厳修致しました。当日は、宗門関係者、私学関係者、本学園役員、教職員等、約400人の参列者を迎え、ガムラン音楽等の献曲、「祖父江先生の思い出」と題した自作ビデオの上映等を含め、内容豊かな学園葬を厳修することが出来ました。

学園葬の式次第は以下の通り。なお、この翌日、現理事長小島隆治が理事長に就任しました。

[学園葬次第]

- ・ 開式のことば
- ・ 導師焼香、表白
- ・ 弔辞
- ・ 勤行
- ・ 献曲～弦楽アンサンブル演奏、ガムラン・ジェゴグ演奏
- ・ ビデオ上映「祖父江先生の思い出」
- ・ 御礼のことば
- ・ 閉式のことば

### ⑤ エレベータ緊急停止事故とその対応

平成20年5月17日、学園成徳館エレベータ乗降中に緊急停止事故が起きました。乗員は無事保護されましたが、それまで「対応マニュアル」がなかったことを反省し、「エレベータ緊急停止事故対応マニュアル」を定め、防災センター、各機関を始め、総合保守管理業者等に配布するとともに全エレベータ室内に掲出し、各機関役割の再確認と、注意喚起を行いました。

### ⑥ 学園財務分析レポートの作成と常任理事会での分析報告の実施

平成20年6月27日開催の常任理事会で、特命課長の作成した「学園財務分析レポート」により、前年度決算内容による学園財務状況の分析報告を実施しました。平成19年度決算では帰属収支差額も黒字となり、全体に堅調に推移する結果でしたが、大きな施設整備事業が

なく目立った活動が少ないため「堅調さ」に見えたもので、学生数の漸減傾向や人件費問題等、隠れた問題にスポットを当てて警鐘を鳴らしました。

#### ⑦ 研究費の在り方の検討と規程の制定

従来、その支出要件が曖昧であった三大学「研究費」のあり方について検討を重ね、各大学の研究費の基本的かつ統一的な運用を図るため、「学校法人同朋学園 研究費に関する取り扱い規程」を制定し、各機関に周知を図りました。年度当初に提出する「研究計画」を基礎に、計画に沿った支出と6ヶ月目の中間見直しを経て、年度末に結果報告を求めるという内容で、各機関の設置する「研究費規程」の上位規程と位置付ける規程を制定しました。

#### ⑧ 職員の退職と採用

平成21年度に向けた職員の異動については、本務職員の退職者1人、I種嘱託職員の退職者1人、II種嘱託職員の退職者14人があり、それを受けて、本務職員の採用3人（嘱託職員からの登用）、II種嘱託職員の採用8人、内部監査室長を含む若干名の非常勤職員の採用を実施しました。

平成20年度の職員採用は、全体に採用を控え、なるべく現有職員の適正配置等、少数精鋭体制による人件費の更なる削減を実施しました。

## 2 各機関の事業概要

平成20年度の各機関に係る事業概要（報告）については、以下に機関別概要を記します。

### (1) 同朋大学

#### ① 学部・学科の新增設の実績

\* 平成17年度に設置した社会福祉学部社会福祉学科幼児福祉専攻（保育士課程に加えて幼稚園教諭一種免許課程を置く）が完成しました。幼稚園教諭一種免許状を16名、保育士資格を41名が取得しました。

#### ② 教育・研究における重点分野の実績

\* 建学の理念の学習会を平成17年度は戸田信正教授、平成18年度は田代俊孝教授、平成19年度は沼波政保教授を講師として行ってきました。平成20年度は学習会としては実施できませんでしたが、FD研修会を開催し、大学の目的・指導方法等について研修しました。

\* ヒューマンケアコースに介護福祉士課程を設置するため平成20年9月に申請書類を提出し、平成21年2月23日に実地調査を受けました。また、法改正（科目変更）に伴い社会福祉士課程についても申請書類を提出しました。両課程とも、平成21年3月31日付で平成21年4月以降の入学者の養成から適用するとの認可を受けることが出来ました。

\* 平成21年度から文学部定員を100名から70名に減員しました。

\* 平成21年度から、両学部共に学びの内容がはっきりと伝えられ志望動向に対応できるように、コース制を主にした教育組織とする改編を行いました。

平成20年度までに決定した、21年度の同朋大学の学部・学科等は次の通りとなります。

文学部	仏教学科	真宗学コース (20名)	仏教文化コース ビハーラコース 大学院一貫コース	社会福祉学部	社会福祉学科(190名)
				社会福祉専攻	社会福祉コース メンタルヘルスコース ヒューマンケアコース
	人文学科	日本文学コース (50名)	外国文学コース 歴史文化コース 映像文化コース	子ども学専攻	福祉教育コース 幼児教育コース 子ども福祉コース 子ども発達心理コース

- \* 授業の改善を図るため毎年行っている「学生による授業評価」を、前期及び後期末に実施しました。さらに、FD研修会を開催して、新入生の意識、学習・生活状況、知的思考法、学習支援等、教育者の資質向上の更なる取り組みを行いました。
  - ・日時 平成21年3月19日 17:50~19:00
  - ・講師 名古屋大学高等教育研究センター 近田 政博 准教授
  - ・講題 「新入生とどう向き合うかー名大版スタディティップスの開発を通してー」
- \* 平成19年度に日本高等教育評価機構の認証評価を受けた結果を踏まえ、しっかりと学習を積み(単位の実質化)学年ごとのバランスのよい履修とするよう年間履修単位の上限を60単位から50単位に変更する履修規程の改正を行いました。今後も、高等教育機関としての質的向上のための検討及び実施を継続して行ってまいります。
- \* 同朋大学附属同朋幼稚園での本学学生の実習、定期協議会を行う等連携を図りました。

### ③ 平成21年度生の募集実績

- \* 大学案内(パンフレット)を、学びの内容をはっきりと伝え、コースを主にした今まで以上に分かり易い形体に全面改訂し、昨年制作したプロモーションビデオ「ラブ&ピース」を活用して、同朋大学の学びの中身(実際)を伝えるよう広報しました。しかし、大学案内の作成が遅れ、十分な広報効果を得ることが困難であったことは、反省材料です。
- \* 従来以上に「高大連携」を推し進めました。出前授業は、パンフレットを配布し応募のあった3高校で実施しました。特に、同朋高校との連携を深め、同校の自由選択講座への講師派遣は出来なかったものの、平成21年度に開講する「社会福祉入門」の授業科目を本学教員が担当して行うこととなりました。また、同校との協議を定期的に行い、本学の入試委員会等へ同朋高校の進路指導担当教員にオブザーバーとして加わってもらい、パンフレットの作成、高校生の意識、進路決定時期と広報時期等について助言を受けました。さらに、名古屋大谷高校の福祉進学クラスの生徒を対象に、本学の教員により本学の介護実習施設を使用して基本介護技術演習を行うことで協議し、平成21年7月に実施する予定となりました。
- \* 新たな特待生制度を平成20年度入学生から実施しました。昨年は周知が遅れたこともあって効果を挙げられませんでした。平成21年度入学生については、スポーツ技能推薦入試で18名から45名に、指定校入試で56名から72名と入学者の増加に一定の効果を挙げることができました。今後は一般入試受験生の増加に繋がられるように、一層広報活動に努力していこうと考えています。
- \* オープンキャンパス7回(夏期に集中開催し、秋期・春期にも開催)・入試説明会1会場・大学展16回・高校訪問(5・9・3月を中心に)・広報媒体誌・新聞等により、本学の特色を

より明確にし、新設する映像文化コース・ヒューマンケアコースを含め改編する教育内容の積極的な広報活動を実施しました。

- \* 入学試験区分・選抜方法を見直し工夫をし、学部入試（AO入試含む）13回、編入試2回、大学院文学研究科博士前期課程入試3回、同後期課程入試2回、人間福祉研究科入試2回、別科入試2回、外国人留学生入試2回を実施しました。
  - ・ 指定校を大幅に増やしました。
  - ・ 従来の推薦入試から同朋高校特別及びスポーツ技能推薦入試を切り離し、早期に合否判定を行いました。
  - ・ 社会福祉学部も自己推薦入試及びⅠ期入試（C方式）を実施しました。
  - ・ Ⅲ期入試を当初から設定し募集活動を実施しました。
  - ・ 別科入試を第Ⅰ期募集（12月）と第Ⅱ期募集（3月）とし、入試回数を増やしました。

	定員	志願者数	入学者数
文学部仏教学科（仏教文化学科）	20名	25（20）	16（11）
人文学科（人間文化学科）	50名	106（72）	68（41）
社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻	140名	196（233）	101（108）
子ども学専攻（幼児福祉専攻）	50名	109（58）	46（36）
大学院文学研究科博士前期課程	5名	13（4）	9（4）
博士後期課程	2名	2（4）	2（4）
大学院人間福祉研究科修士課程	8名	5（8）	4（7）
別科	30名	44（33）	39（31）
計	305名	500（432）	285（242）

※（ ）内は前年度の数。編入は仏教文化学科2名、社会福祉専攻20名（内、2年次編入が9名）、幼児福祉専攻2名の編入学者数となり、上記の表に含めていません。

#### ④ 教育職員の採用実績

- \* 社会福祉学部で介護福祉士養成課程・特別支援学校教諭課程等のため本務教員6名・特任教員1名を採用しました。（平成19年度退職者＝特任教員2名＜文学部＞）
- \* 非常勤教員は平成19年度より7名の減員を実施しました。

#### ⑤ 施設の新設・大規模改修の実績

- \* 名古屋キャンパス第二次整備事業第二期工事において「博聞館」が竣工しました。成徳館・知成館・C号館から既設の機器備品・図書等を移設し、11月中旬から供用を開始しました。
- \* 第三期工事の一部計画変更により、知成館の解体並びに成徳館の小講義室を中講義室等に

する改修は計画変更され、行いませんでした。

## ⑥ 大型設備の整備事業の実績

「博聞館」の竣工に伴い、介護福祉士養成課程の介護実習室・入浴実習室・家政実習室、会議室、ゼミ室、研究室他の各施設にベッド・浴槽・調理台・机・椅子・書架・AV機器等を整備しました。(約60百万円)

## ⑦ その他の主な事業実績

- \* 施設整備事業寄付金募金を実施しました。平成18年1月から3年間の募集期間で最終年度となり、これまで卒業生・保護者・教職員に寄付を募り総額74,615千円の寄付金をいただきました。(目標額は50,000千円)
- \* エクステンションセンターとして、自治体との連携講座、エツゾウ映画館、ギャラリーDoでの写真展、その他の講座を行いました。また、在学生を対象に資格取得講座(ワード・エクセル・福祉用具専門員)を開き、センター機能の充実を図りました。
- \* 平成21年度以降に備えて資金の内部留保を図るため、予算積算段階で指示した10%の経費減にとどまらず一層の節減に努め、役職手当の50%減額及び期末手当の大幅減額を断行し、さらに本務教員の個人研究費の一律減額を行い、諸経費の削減を行いました。
- \* 厳しい財政状況により、一般特待生(2~4年次生で成績優秀者)の奨学金総額を当初予定より300万円減らして採用しました。
- \* 再リースし6年を経過するMM教室の機器を、平成21年度に入れ替えるための準備をしました。(補助金申請予定)
- \* 学生個々の欠席状況を把握し、アドバイザー制度を活かし学生指導を効果的に行うことを目的に、平成19年度から導入したカードリーダー機による出欠席管理システムについて、博聞館に設置するカードリーダー機を含め、平成20・21・22年度と国庫補助金を受けることとなりました。今後は、システム完成に向けて進めていきます。
- \* 平成20年5月17日(土)に同朋大学を会場として、大江健三郎氏、オルハン・パムク氏の二人のノーベル文学賞受賞者を招き、『2008年ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「21世紀の創造」第20回記念特別セッション 文学フォーラム名古屋』(読売新聞社主催)が開催されました。本学学生を始め関係者に聴講いただき、併せて広報効果を考え会場を引き受けました。

## (2) 名古屋音楽大学

### ① 学部・学科の新増設の実績

- \* 1学科制の定着に向けて

平成19年度にスタートさせた「音楽学部音楽学科」(1学科制、入学定員180名)は2年間の運営を終え、その特徴である“コンパクトかつ柔軟な運営”を充実させるために、新しい各種運営の仕組みを定着させてきました。しかし、入学者数が定員180人に大きく満たないことは、深刻な課題として受け止めています。

\* コースの充実

現在設けている 16 コースについて、コース毎の入試結果を厳粛に受け止め、各コースについて将来の展望を含め評価を行いました。具体的な判断として、平成 22 年度からギター・マンドリンコースを廃止することを前提として、平成 22 年度入試に向けた学生募集は行わないことを教授会において決議しました。

## ② 教育・研究における重点分野の実績

教育学習支援並びに学習環境の改善

- \* 演奏等において高い技術を目指す学生には、各種コンサートで出演できる機会を増やし、常に力を試しながら学業の継続ができるようにしました。平成 20 年度は、ビッグバンドの学生の発表の機会として、「お寺でジャズ」の名のもとに東別院本堂で初めて演奏会を開催しました。1 千人を超える聴衆を集めることが出来、大変な反響でした。また、邦楽演奏会も初めてキャンパスを離れ、電気文化会館ザ・コンサートホールで演奏会を実施しました。新しいコースの充実が確認でき、演奏会に出演することによって学生たちが確実に学業に自信を深めていくことが出来ました。
- \* 音楽に対する意欲が多様化する中、音楽を愛する学生であれば誰でも楽しく学業を続けることが出来るよう、多様な楽器の演奏技術を修得することが可能な教育内容を整備しました。また、音楽ビジネスの世界で活躍できる人材の養成に向けた整備も行いました。平成 20 年度から、音楽ビジネスを学ぶ学生のために、大学が行う演奏会でステージマネージメント実習を単位として認めることを開始しました。3 年目を迎えたビジネスコースの学生たちは、実践的な学習の機会を経験することによって、生き生きと学んでいます。
- \* 大学院教育においては国際的評価が高い演奏家を講師に招き、国際水準のレッスンを受講させることが出来ました。

器楽専攻ピアノ 春学期 クラウス・シルデ教授

器楽専攻ピアノ 秋学期 アンナ・マリコヴァ氏

声楽専攻 秋学期 ウーヴェ・ハイルマン教授

\* ビッグプレイヤーによる学内演奏会及びクリニック開催

本学教員の縁によってスティーブ・ガッド、エディー・ゴメス等のジャズ界のビッグプレイヤーをお招きすることが出来、公開演奏会と公開クリニックを開催し多くの熱心なファンに会場いただきました。

このような一流の演奏と指導を本学学生が身近に体験できる機会を設けることが出来たことの成果は大きく、学生たちを中心に夢を持たせることが出来ました。

③ 平成 20 年度生の募集実績

( ) 内は平成 19 年度

<広報活動>

- ・ 音楽講習会<夏期 116 名 (140)、冬期 59 名 (91) >
- ・ オープンキャンパス 2 回 (7 月、9 月)
- ・ 入試説明会 5 会場<参加者 189 名 (249) >
- ・ 高校訪問<合計 187 校 (125)、東海 159 (116)、北陸 9 (4)、甲信越 2 (1)、九州 14 (4)、四国 1、近畿 2 >

\* 全教員が高校訪問に取り組み、前年度を大幅に上回る訪問実績を上げることができました。

- ・ 大学展 (進学ガイダンス) 12 会場 (11)
- ・ 高校内進学ガイダンス等 34 会場 (18)

<広報宣伝>

広報宣伝費等の総経費は 20,594 千円 (前年度 17,022 千円) で、「めいおんホール」のオープニング企画と「お寺でジャズ」の企画を通して、施設の充実並びに演奏会の新企画の宣伝を新聞等の媒体を利用し露出度を高めました。また、ジャズ界のビッグプレイヤーによる学内演奏会及びクリニック開催については、HP やチラシをとおして PR し、大きな宣伝につなげることが出来ました。

途中編入の希望者が増えていることから、編入学の学生募集に力を入れることによって昨年度の 6 名から 11 名に入学者数を増やすことが出来ました。

◇ 志願者・入学者数<平成 21 年度入試実績>

( ) 内は平成 20 年度入試

単位：名

コース名	志願者数	入学者数	コース名	志願者数	入学者数
ピアノ	64 (71)	44 (48)	作曲	4 (6)	3 (3)
管 楽	35 (40)	26 (31)	コンピュータミュージック	0 (1)	0 (1)
弦 楽	9 (7)	6 (5)	電子オルガン	7 (6)	7 (6)
ギター・マンドリン	0 (0)	0 (0)	ジャズ・ポピュラー	7 (9)	7 (9)
打 楽	3 (8)	2 (6)	音楽教育	11 (12)	8 (8)
邦 楽	0 (0)	0 (0)	音楽療法	7 (4)	5 (3)
声 楽	24 (23)	13 (13)	音楽総合	6 (7)	6 (2)
舞踊・演劇・ミュージカル	3 (3)	2 (1)	音楽ビジネス	6 (8)	5 (6)
<b>音楽学部・音楽学科</b> 〈定員 180〉	<b>186 (205)</b>	<b>134 (142)</b>			

大学院音楽研究科<定員 18>	35 (35)	25 (27)	
合 計	221 (240)	159 (169)	

\*2年次編入学2名（音楽療法1名、音楽ビジネスコース1名）

\*3年次編入学9名（ピアノ2名、邦楽1名、弦楽1名、声楽2名、舞踊・演劇・ミュージカル1名、音楽療法1名、音楽総合コース1名）

#### ④ 教育職員の採用実績

定年退職3名、途中退職1名がありましたが、本務教員の採用は行いませんでした。しかし、客員教授7名、特別講師1名を含む非常勤教員24名を採用し、各コースの教員スタッフの充実を図りました。

#### ⑤ 施設・設備の新設・大規模改修等に関わる諸経費（実績）

- ・第二次整備事業「博聞館」建築及びA・C号館改修工事関係 419,200 千円
- ・第二次整備事業B・D・E号館解体工事 23,600
- ・コンピュータ関連施設（旧D号館）の移設工事 8,300
- ・A号館空調機入替工事 17,850
- ・めいおん会館（寮）バス・トイレ等改修工事 9,500
- ＊ 改修が実現し、寮生活のアメニティーが大幅に改善し、学生生活支援に実績を残すことが出来ました。
- ・めいおん会館（寮）耐震工事 19,660（耐震診断費1,580、設計費1,280、施工費16,800）
- ＊ 耐震診断費、施工費及び設計費一部の半額が国庫補助金収入（9,270）。
- ・成徳館空調設備修繕 1,600

#### ⑥ 設備の整備事業の実績

- ・「博聞館」什器機器備品関係 37,800
- ・鍵管理・入退出管理等設備 6,350
- ・「博聞館」電話・LAN設備 2,400
- ・楽器等機器備品購入 4,600

#### ⑦ その他の主な事業実績

- ・「博聞館」竣工に関わる引越し費用 4,300 千円
- ・「名古屋音楽大学附属音楽アカデミー」（社会への開放事業）の本格的運営を開始しま



した。－平成 20 年 5 月－特に、「音楽教室」の運営を軌道に乗せることが出来、11 月 15 日に第 1 回の発表会を開催することが出来ました。「音楽教室」の運営を通して、地域への貢献ということに留まらず、大きな宣伝効果を産みつつあります。同時に新研究員制度を定着させ、音楽教室の講師スタッフの充実を図ることが出来、本学卒業生の指導者養成の面でも期待が持てる結果となっています。

- ・ 平成 21 年度の大学認証評価書類の提出及び受審に向け、平成 20 年 9 月に申請を行いました。認証評価の準備に掛かり、報告書作成のために大学評価委員会を開催すると共に、各種規程の整備や、ファカルティ・デヴェロップメント委員会の発足が出来ました。
- ・ 募金事業<施設整備事業募金>  
第二次名古屋キャンパス整備事業関連で実施した施設設備整備に関する募金事業において、一般寄付 3,920 千円を受けました。

### (3) 名古屋造形大学（平成 19 年度までは旧名称「名古屋造形芸術大学」）

#### ① 学部・学科の新增設の実績

- \* 平成 20 年度より大学名称を名古屋造形芸術大学から名古屋造形大学へ変更（大学院の名称変更を含む）を行いました。
- \* 平成 20 年度入学生より造形芸術学部美術学科・デザイン学科の 1 学部 2 学科から造形学部・造形学科の 1 学部 1 学科に変更を行いました。
- \* 上記の 1 学科変更に合わせ、コースを以下のコース・クラスに再編を行いました。
  - ①日本画コース
  - ②洋画コース
  - ③洋画コース・版画クラス
  - ④彫刻コース
  - ⑤先端表現コース・総合造形クラス
  - ⑥先端表現コース・マンガクラス
  - ⑦先端表現コース・映像／アニメーションクラス
  - ⑧先端表現コース・デジタルフォトクラス
  - ⑨視覚伝達デザインコース
  - ⑩イラストレーションデザインコース
  - ⑪情報デザインコース
  - ⑫建築デザインコース
  - ⑬インテリアデザインコース
  - ⑭プロダクトデザインコース
  - ⑮工芸コース
  - ⑯工芸コース・ジュエリーデザインクラス
  - ⑰アートプロデュースコース

## ② 教育・計画における重点分野の実績

- \* F D委員会を設置し、平成 20 年 9 月 29 日（月）以下のとおり第 1 回 F D 研究会を開催しました。

対象...本学教職員

講師...名古屋短期大学及び桜花学園大学保育学部教務課長で法人本部企画部課長の式庄憲二氏

講題...「学生満足度を高める名古屋短期大学の取り組み」

- \* 各種プロジェクト（やさしい美術プロジェクト等）を積極的に推進し、学生、教員が共に学習する場を提供しました。
- \* アトリエの 24 時間開放を引き続き実施しました。
- \* 卒業制作に向けて柔軟な対応を図るなど、工房機能の向上に努めました。
- \* 各界の著名人を招請しスーパーレクチャーを実施しました。

平成 20 年度は平成 20 年 6 月 24 日（火）に第 1 回の講座を開催し、最終回 11 月 12 日（水）までに、本学客員教員を含め 15 名の講師により 15 講座を行いました。

## ③ 21 年度生の募集実績

- \* オープンキャンパス 4 回（7/12・13、9/13・14、10/12、3/28）、入試説明会（高等学校教員対象）1 回、入試相談会 36 回、高等学校内説明会（模擬授業含む）76 回、高校訪問延べ 301 回、画塾訪問延べ 158 回、実施しました。
- \* 学部入試（AO 入試含む）9 回、編入試 1 回、大学院入試 3 回、実施しました。

志願者・入学者を見ると、共に東海 4 県以外からの受験生の割合が増えており、地域入試や遠方の高校・研究所訪問に力を入れてきたことが実績として現れているのではないかと思います。しかし、逆に東海地区の志願者数を大きく減らしていることが大きな問題であります。今後は、東海地区の高校・研究所訪問をしっかりと実施していかなければならないと考えます。2010 年度は、津会場入試を実施することが決定しているため、三重方面への広報活動もこれまで以上に強化していきたいと思っています。

また、2009 年度の近畿地区を見ると、志願者はあるものの入学者はゼロで、近畿地区の芸術系大学の多さと入学試験倍率の低下が関係しているのではないかと思います。

### 【学部/1 年次入学】

（単位：名）

学科	コース・クラス	定員	志願者数	入学者数
造形学科	日本画	15	50 (38)	17 (18)
	洋画	25	75 (91)	18 (33)
	洋画・版画	5	11 (14)	0 (1)
	彫刻	10	13 (13)	4 (6)
	先端表現・総合造形	20	37 (50)	5 (19)
	先端表現・映像/アニメーション	10	48 (54)	10 (14)
	(先端表現・マンガ)		(39)	(10)
	マンガ	20	95 ( )	35 ( )
	(先端表現・デジタルフォト)		(6)	(0)
	視覚伝達デザイン	40	199 (281)	44 (51)

	イラストレーションデザイン	15	212 (194)	24 (18)
	(情報デザイン)		(54)	(14)
	デジタルメディアデザイン	15	59 ( )	19 ( )
	建築デザイン	25	29 (45)	8 ( 8)
	インテリアデザイン	10	49 (62)	10 (17)
	プロダクトデザイン	20	55 (58)	22 (20)
	工芸	10	45 (37)	10 ( 7)
	(工芸・ジュエリーデザイン)		(24)	( 7)
	ジュエリーデザイン	10	32 ( )	11 ( )
	アートプロデュース	10	5 (11)	4 ( 7)
	合計	260	1,014 (1,071)	241 (250)

※ ( ) 内は 20 年度実績

【学部/編入学】

(単位：名)

学科	コース	定員	志願者数	入学者数
造形学科	洋画	若干名	( 3)	( 3)
	総合造形		( 1)	( 0)
	視覚伝達デザイン		3 ( 4)	2 ( 2)
	情報デザイン		1 ( 1)	0 ( 1)
	産業・工芸デザイン		4 ( )	4 ( )
	合計	若干名	8 ( 9)	6 ( 6)

※ ( ) 内は 20 年度実績

【大学院】

(単位：名)

研究科	専攻	定員	志願者数	入学者数
造形研究科	日本画	10	5 ( 3)	4 ( 2)
	洋画		5 ( 6)	4 ( 6)
	彫刻		( 1)	( 0)
	先端表現		5 ( )	5 ( )
	工芸		( )	( )
	視覚伝達デザイン		2 ( 2)	2 ( 1)
	建築デザイン		3 ( )	3 ( )
	プロダクトデザイン		2 ( )	2 ( )
	環境造形		( )	( )
	美術理論		( )	( )
	合計	10	22 (12)	20 ( 9)

※ ( ) 内は 20 年度実績

④ 教育職員の採用実績

- \* 本務教員
  - ・短期大学部から教授 2 名、准教授 1 名の移籍を行いました。
  - ・教職課程法定教員 1 名の退職に伴う補充のため、特任教授を 1 名採用しました。
- \* 非常勤教員
 

本務教員の退職に伴う新規採用、学科開設に伴う新規採用、退職者補充に伴う補充による採用を合わせ、17 名の新任者を採用しました。

#### ⑤ 施設の新設・大規模改修の実績

- \* 第二次整備計画に伴い、G 棟の建築、学生ホールの外壁改修、プレハブギャラリー（D2 ギャラリー）撤去を行いました。G 棟には 1 階に G2・G3 ギャラリー、学生サロン、多目的テラス、造形芸術センターを、2 階に多目的ホールを設置しました。（総事業費 104 百万円）
- \* A 棟外壁保護改修工事（3 ヶ年計画最終年度）を行ない、A 棟全体の外壁改修が全て終了しました。（総事業費 18 百万円）
- \* 小牧キャンパス進入路沿いに設置されている「名古屋造形芸術大学」の名称が刻まれた門柱をキャンパス内に移設、造形の歴史を記した銘板とともに設置し、「はじまりの広場」を整備しました。（総事業費 8 百万円の内、5 百万円を名古屋造形芸術大学短期大学部、3 百万円を名古屋造形大学にて、それぞれの桃美会より助成を受けて行いました。）

#### ⑥ 大型設備の整備事業の実績

- \* 老朽化に伴う C 棟空調機器の入替工事を行いました。（総事業費 30 百万円）
- \* 本学の工房の一つであるコンピュータ室の情報教育システム更新を行い、最新の教育環境を整えました。（総事業費 12 百万円、うち 4 百万円はリース）

#### ⑦ その他の主な事業実績

- \* 文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）の 2 ヶ年目を実施しました。現代GPに採択された「やさしい美術プロジェクト」の平成 20 年度における大きなイベントとして、「シンポジウム」を平成 20 年 11 月 29 日（土）に以下のとおり開催しました。
  - ・シンポジウム名...やさしい美術—いのちの現場で育まれるアート・デザイナー
  - ・次 第... ①実践報告 高橋 伸行（名古屋造形大学准教授）
    - ②基調講演 林 容子（尚美学園大学・大学院芸術情報学部准教授／アートマネジメントコンサルタント）
    - ③パネルディスカッション
 

林 容子、田代 俊孝（同朋大学大学院教授）、小林 昌廣（医療人類学者／情報科学芸術大学院大学教授）早川 富博（愛知県厚生農業協同組合連合会足助病院 院長）
  - ・会 場...名古屋キャンパス 成徳館 12F ホール
- \* 名古屋造形大学アート&デザイン実験室「LABOX」を開設し、運営を開始しました。
 

平成 20 年度は本学専任教員を中心とした企画「tetra（テトラ）」を平成 20 年 9 月 12 日～10 月 5 日、平成 20 年 10 月 17 日～11 月 9 日、平成 20 年 11 月 21 日～12 月 14 日の 3 期間で実施しました。また、「大学院 実験展」として、平成 21 年 2 月 10 日～3 月 29 日の期間で、10 名の大学院生によるプレゼンテーションを行いました。

＊ 地域・自治体との連携

- ・大草バンブーインスタレーションへの後援

平成 20 年 11 月 1 日（土）～9 日（日）の期間で行われた「バンブーインスタレーション in おおくさ 2008」において、本学教員、学生の出品、学長が審査委員長として協力しました。

- ・春日井市文化フォーラムへの講師派遣

「あいち子ども芸術大学 2008」において、本学専任講師津田純人による「ブロックで街を作ろう！」、非常勤講師川原文による「日本画の絵の具で絵をかこう」を開講しました。

- ・小牧市からの業務委託による事業

小牧市からの小牧市民病院における「院内癒しとやすらぎ環境整備」の依頼により、本学准教授 高橋伸行を中心とする「やさしい美術プロジェクト」によりこれを行いました。

- ・春日井市からの業務委託による事業

春日井市教育委員会文化財課からの「内々神社庭園」復元調査依頼により、本学 岡田憲久教授がこれを行いました。

(4) 名古屋造形芸術大学短期大学部

① 学部・学科の新增設の実績

学部・学科の新增設はありません。

平成 20 年度入学生募集停止（平成 21 年度以降在学生の卒業を待つて廃止となります。）

② 教育・計画における重点分野の実績

- ＊ 教育の質の維持・向上に努めました。
- ＊ コース制を維持しながらも、コースを横断する造形教育にも積極的に取り組みました。
- ＊ 卒業制作に向けて柔軟な対応を図るなど、工房機能の向上に努めました。
- ＊ アトリエの 24 時間開放を引き続き実施しました。

③ 21 年度生の募集実績

学生募集停止。

④ 教育職員の採用実績

なし。

⑤ 施設の新設・大規模改修の実績

名古屋造形芸術大学短期大学部の閉学に伴い、小牧キャンパス進入路沿いに設置されている「名古屋造形芸術短期大学」の名称が刻まれた門柱をキャンパス内に移設、造形の歴史を記した銘板とともに設置し、「はじまりの広場」を整備しました。（総事業費 8 百万円の内、5 百万円を名古屋造形芸術大学短期大学部、3 百万円を名古屋造形大学にて、それぞれの桃美会より助成を受けて行いました。）

## ⑥ 大型設備の整備事業の実績

なし。

## ⑦ その他の主な事業実績

- \* 名古屋造形大学アート&デザイン実験室「LABOX」を開設し、運営を開始しました。  
平成 20 年度は本学専任教員を中心とした企画「tetra (テトラ)」を 2008 年 9 月 12 日～10 月 5 日、2008 年 10 月 17 日～11 月 9 日、2008 年 11 月 21 日～12 月 14 日の 3 期間で実施しました。また、「大学院 実験展」として、2009 年 2 月 10 日～3 月 29 日の期間で、10 名の大学院生によるプレゼンテーションを行いました。
- \* 名古屋造形芸術大学短期大学部の閉学に伴い、「造短 42 年史」を編纂しました。

## (5) 同朋高等学校

### ① 教育・研究における重点分野の実績

三大学統合問題は、高校にとっても命運を決める大事業となります。現状では、大学がある高校として特色と魅力を十分生かし切れていません。三大学との高大連携をはかるなかで、同朋学園全体の評価を高めることを積極的に推進していくことを念頭におき、平成 20 年度には、同朋大学と名古屋造形大学の教員が高校の日常カリキュラムで授業することを 21 年度からスタートすることを決めてまいりました。以下に、20 年度に準備して 21 年度から実施する授業内容とともに、従来から続いている高大連携の概略について記述します。

- \* 普通科 3 年生の選択授業「卒業研究」の一つである「社会福祉入門」を同朋大学の教員 9 名によるリレー講義で実施します。1 月末には講座ガイダンスをおこない、4 月から 21 名の生徒が受講いたします。21 年度、高校から社会福祉学部への進学者は 9 名でしたが、この授業によって大学進学者が増加することを期待します。
- \* 商業科と名古屋造形大学の連携をすすめました。具体的には、21 年度から始まった商業科 2, 3 年生の「選択授業」の一つ「商業デザイン」の授業を名古屋造形大学の非常勤講師が担当しています。また従来から、エクステンション・プログラムでデッサンを受講している生徒たちの合評会や、父母ガイダンス、中学生向けガイダンス等に対して講師を派遣していただいています。このことが、美術科とか美術コースがない高校で一定数の美大進学者を確保できている要因となっています。
- \* 音楽科と名古屋音楽大学との提携は、以下の実態があり、従来から緊密な関係が保たれていると申せましょう。
  - ① 個人レッスンに対する大学教員の援助は古くからあり、多様な専攻実技に即対応できる強みが他校の音楽科にない特徴で生徒募集に反映しています。
  - ② 2003 年度（平成 15 年）入試から音楽科特別推薦者の入学金免除が実現しました。
  - ③ 2005 年度（平成 17 年）から始めた教科「情報」の授業を音楽科らしく「コンピュータミュージック」として開講し、大学のパソコン教室を使用して大学教員によって講義されています。こうした連携に裏付けされ、21 年度受験生で“ハープ”を専攻する中学生が現れたところ、大学の理解と協力で楽器の使用を許可していただき入学することができました。

## ② 平成21年度の生徒募集実績

- \* この6年間の入学者と志願者数の変化は、平成16年427名(志願者数1,630名)→平成17年353名(志願者数1,467名)→平成18年383名(志願者数1,535名)→平成19年432名(志願者数1,748名)→平成20年491名(志願者数1,904名)→平成21年419名(志願者数1,926名)。
- \* 募集活動を強化するために入試広報部教員の授業時間を減らし、中学訪問の回数と内容を充実させました。
- \* 10月に、近隣地域の塾廻りを教員全員の分担で初めて実施しました。
- \* 毎年実施している音楽科夏季講習会に加え、8月にウィーン少年合唱団附属小学校の日本人教師を招いて中学生向け合唱講習会を実施しました。
- \* ホームページを全面リニューアルし、中学生と中学生保護者に対するアピール度の強い内容としました。
- \* 高校創立50周年を広く宣伝することで同朋への関心を高められるよう考えました。その一つとして、封筒と名刺に“創立50周年ロゴ”を作成して刷り込みました。また、中日新聞へのカラー5段組宣伝広告を、昨年度の1回から2回に増やして実施しました。
- \* 秋に実施する学校説明会は例年2回でしたが、他の私学の動静分析から、中学の保護者会が開かれて私学の受験校を決定する12月にも実施することとして、合計3回行ないました。その結果、12月の学校説明会は428家庭あり1回当たり参加者数は過去最大となりました。また、個別相談が60件以上あったことも特筆できる出来事でした。夏の体験入学を含めた総参加数は1,650家庭となり、一昨年1,025家庭、昨年1,124家庭と比べて約1.5倍の参加となりました。

## ③ 教育職員の採用実績

- \* 平成20年度は、専任教員1名と次年度に専任につながるI種常勤講師7名を採用しました。また、教員充足率90%達成に向けてII種常勤講師を14名採用しました。尚、4月にI種常勤講師として採用した7名は、平成21年4月を待たずに平成21年1月に専任教員として採用しました。今後は、I種常勤講師の制度を廃止し、専任の採用にあたっては「専任教員」として採用することといたします。
- \* 平成21年度採用に向けて6月末から求人活動を開始して優秀な人材の確保に努めました。その結果、8名の専任教員(数学科1名、理科1名、英語科3名、商業科1名、入試広報担当教員2名)を採用しました。尚、英語科の1名は、外国人教師で、5年間の期限付きの年俸制教員として採用しました。また、1年間の期限付の常勤講師を12名採用しました。

## ④ 施設の新設・大規模改修の実績

- \* 平成21年度の設置をめざし、体育館にエレベーターを設置するために設計を発注しました。
- \* 活性化している部活動の現状に合わせ、クラブハウスの増設を行うために設計を発注しました。
- \* 車椅子生徒のために、雨天時用の庇をB号館に新設しました。
- \* 商業科の選択授業「商業デザイン」の教室を確保するため、第1コンピュータ室を間仕切りして2教室に分割しました。

## ⑤ 大型設備の整備事業の実績

- \* 商業科の特別教室である総合実践室を 3,085 千円かけて機能強化し、インターネットを利用した授業等ができるように整備しました。

## ⑥ その他の主な事業実績

- \* 高校創立 50 周年事業として以下の取り組みました。
  - ① 創立 50 周年を記念し、親鸞聖人七百五十回御遠忌（2011 年）にちなんで“親鸞聖人像”を建立しました。
  - ② 12 月 6 日に 50 周年記念行事を開催しました。教育シンポジウムを 350 名の参加で、レセプション（祝賀会）を 850 名の参加で成功させました。
  - ③ 「創立 50 年誌」を発刊する上で、退職教員も参加した編集委員会を結成して執筆作業に入りました。
- \* 復刊して 3 冊目となるが、今年も「同朋の教育 17」を発刊しました。
- \* 高校拡充準備金は 2005 年度(H17)から積立を開始し、20 年度は 30,000 千円を積み立てました。20 年度末で 110,000 千円となりました。
- \* 平成 20 年度から体育館改築資金として 2 号基本金を積み立てることを決定しました。築 50 年となる 2029 年までに 650,000 千円を目標とし、毎年 40,000 千円ずつの積立とします。

## (6) 同朋大学附属同朋幼稚園

### ① 主要な事業実績

- \* 幼稚園「仮園舎」の改修と、今後の増築計画  
平成 21 年度に竣工を迎える「幼稚園新園舎」建築工事に伴い、名古屋音楽大学から借用することとなった「仮教室」の改修・整備を平成 20 年度中に終え、平成 21 年の夏休み前までの間、「4 歳児」クラス（年中）園児が生活することとなります。
- \* 同朋大学との連携
  - ・ 同朋大学からの実習生を 28 人引き受けました。
  - ・ 同朋大学から財政的支援を受けました。（平成 20 年度、400 万円）
  - ・ 同朋大学より、第二次整備事業に伴う工事費の支援を受けることが決定しました。  
(17,163,000 円)
- \* 緊急地震速報の受信装置を設置
  - ・ 本体価格=71,400 円（35,000 円、愛知県からの補助金あり。）
  - ・ 設置費用=26,250 円

### ② 教育・研究における重点計画

- \* 保護者から要望のある預り保育・子育て支援（未就園児教室）・満 3 歳児保育を継続しました。
  - ・ 預り保育参加者=1 日当たり平均 23 人
  - ・ 子育て支援参加者=月平均 19 人
  - ・ 満 3 歳児入園者=7 人



- \* 平成 21 年度教育要領改訂のための教育課程及び指導計画を見直しました。
- \* 名古屋音楽大学の学生による情操教育の充実を年 3 回実施しました。
  - ・ 6 月 20 日 マリンバ演奏及びボディ・パーカッション
  - ・ 9 月 4 日 NCMオーケストラ・コンサート（園児向けのオーケストラクラブの演奏会）
  - ・ 11 月 20 日 ピアニカ演奏
- \* 教員一人ひとりに、チェックシートによる自己評価を 12 月に実施しました。

### ③ 平成 21 年度幼稚園児募集実績

学年	平成 20 年 2 月 20 日（予算時）	平成 20 年 5 月 1 日 現 在
年少（三歳児）	21 名	22 名
年中（四歳児）	1 名	1 名
年長（五歳児）	0 名	0 名
満 3 歳児	0 名	1 名
合 計	22 名	23 名

- \* 魅力ある幼稚園づくりを目指していくことが募集につながると考え、以下のことを実施しました。
  - ・ 同朋大学附属同朋幼稚園としての独自性を出していくため、保護者や子どもたちにとって他機関との連携で、魅力的なものを取り入れ、実行してまいりました。平成 20 年度実績は以下のとおりです。
    - 「卒園児対象の夏休み工作作り」 29 人参加
    - 「名古屋造形大学への陶芸体験」 65 人参加
  - ・ 同朋幼稚園の良さを知ってもらうために、幼稚園説明会の更なる充実を図り、また、学園本部企画課と連携を取り、ホームページ等を利用して、幼稚園で実施していることをアピールしました。平成 20 年度の実績は以下のとおりです。（年 8 回）
    - 平成 20 年 5 月 9 日 「はなまつり」
    - 平成 20 年 5 月 28 日 「メルヘン動物村」
    - 平成 20 年 6 月 20 日 「ボディパーカッション」
    - 平成 20 年 6 月 28 日 「七夕まつり」
    - 平成 20 年 10 月 11 日 「運動会」
    - 平成 20 年 11 月 15 日 「作品展」
    - 平成 20 年 12 月 3 日 「お店やさんごっこ」
    - 平成 21 年 1 月 28 日 「マジックショー」

### ④ 教職員の採用計画

- \* 平成 21 年度 専任教員 1 名を採用しました。

### ⑤ 幼稚園の大規模改修計画

- \* トイレの改修（4,998,000 円）
  - 平成 19 年度の 1 階トイレ改修に引き続き、平成 20 年度は夏休みを利用して、2 階部分のトイレ改修工事を実施しました。
- \* 第二次整備計画の幼稚園に関係する部分（新幼稚園舎建築等）の実施に向けて、準備を進

めました。

### 第3章 財務の概要

#### 1 資金収支計算書

資金収支計算書は学園の一年間の諸活動の状況をお金の動きで捉えたもので、収入の部の前年度繰越支払資金と支出の部の次年度繰越支払資金の差が一年間の資金の増減となり、平成20年度は100,997千円の資金が増加したこととなります。

##### 【収入の部】

(千円)

No.	科 目	18年度決算額	構成比	19年度決算額	構成比	20年度決算額	構成比
1	学生生徒等納付金収入	4,674,920	53.4	4,537,487	49.6	4,331,940	46.9
2	手 数 料 収 入	81,001	0.9	75,282	0.8	76,301	0.8
3	寄 付 金 収 入	128,025	1.5	89,375	1.0	131,229	1.4
4	補 助 金 収 入	1,036,126	11.8	1,088,815	11.9	1,081,457	11.7
5	資 産 運 用 収 入	26,229	0.3	35,296	0.4	39,454	0.4
6	資 産 売 却 収 入	1,655	0.0	0	0.0	2,326	0.0
7	事 業 収 入	19,748	0.2	19,541	0.2	22,449	0.2
8	雑 収 入	308,649	3.5	247,695	2.7	201,859	2.2
9	借 入 金 等 収 入	157,322	1.8	168,338	1.8	189,148	2.0
10	前 受 金 収 入	849,634	9.7	746,260	8.2	746,499	8.1
11	そ の 他 の 収 入	1,262,226	14.4	1,828,252	20.0	1,852,023	20.1
12	資金収入調整勘定	-1,228,392	-14.0	-1,238,952	-13.5	-1,139,619	-12.4
13	前年度繰越支払資金	1,430,280	16.4	1,548,900	16.9	1,692,872	18.4
14	収入の部 合計	8,747,426	100.0	9,146,294	100.0	9,227,234	100.0

##### 【支出の部】

(千円)

No.	科 目	18年度決算額	構成比	19年度決算額	構成比	20年度決算額	構成比
15	人 件 費 支 出	4,116,679	47.1	3,977,306	43.5	3,831,615	41.5
16	教育研究経費支出	1,111,346	12.7	1,041,072	11.4	1,146,508	12.4
17	管 理 経 費 支 出	410,668	4.7	397,665	4.3	392,732	4.3
18	借入金等利息支出	26,878	0.3	22,580	0.2	18,282	0.2
19	借入金等返済支出	323,512	3.7	324,122	3.5	261,968	2.8

20	施設関係支出	166,139	1.9	1,075,483	11.8	937,099	10.2
21	設備関係支出	108,888	1.2	133,834	1.5	195,673	2.1
22	資産運用支出	892,656	10.2	375,361	4.1	635,099	6.9
23	その他の支出	391,607	4.5	442,165	4.8	417,186	4.5
24	資金支出調整勘定	-349,850	-4.0	-335,461	-3.7	-402,800	-4.4
25	次年度繰越支払資金	1,548,900	17.7	1,692,164	18.5	1,793,869	19.4
26	支出の部 合計	8,747,426	100.0	9,146,294	100.0	9,227,234	100.0

(注1) 構成比…No.14「収入の部合計」、No.26「支出の部合計」に対する比率(単位：%)

## 2 消費収支計算書

学園の一年間の諸活動から経営の状況を捉えたもので、学生生徒等納付金や補助金等の帰属収入(負債としない収入)と人件費や教育研究経費等の経費との均衡状態を明らかにしております。なお、帰属収入からは資産取得に関わる分を金額で示した基本金組入額をマイナスします。平成20年度は、794,274千円の支出超過となりました。主な原因は、第二次整備事業計画が本格的に進められることにより基本金組入額が増加したため、前年度から二年連続で消費収支の大幅な支出超過が続いています。

### 【消費収入の部】

(千円)

No.	科目	18年度決算額	構成比	19年度決算額	構成比	20年度決算額	構成比
1	学生生徒等納付金	4,674,920	73.8	4,537,487	73.6	4,331,940	73.0
2	手数料	81,001	1.3	75,282	1.2	76,301	1.3
3	寄付金	133,125	2.1	100,076	1.6	132,489	2.2
4	補助金	1,036,126	16.4	1,088,815	17.7	1,081,457	18.2
5	資産運用収入	26,229	0.4	35,296	0.6	39,454	0.7
6	資産売却差額	784	0.0	0	0.0	2,326	0.0
7	事業収入	19,748	0.3	19,541	0.3	22,449	0.4
8	雑収入	364,857	5.5	306,202	5.0	249,271	4.2
9	帰属収入合計	6,336,793	100.0	6,162,702	100.0	5,935,692	100.0
10	基本金組入額 合計	-274,647	-4.3	-1,069,238	-17.4	-547,177	-9.2
11	消費収入の部 合計	6,062,146	95.7	5,093,464	82.6	5,388,514	90.8

### 【消費支出の部】

(千円)

No.	科目	18年度決算額	構成比	19年度決算額	構成比	20年度決算額	構成比
12	人件費	4,126,603	65.1	3,983,846	64.6	3,868,909	65.2
13	(退職給与引当金組入額)	(349,110)	(5.5)	(307,853)	(5.5)	(267,757)	(4.5)
14	教育研究経費	1,636,508	25.8	1,559,300	25.3	1,628,796	27.4
15	(減価償却額)	(525,162)	(8.3)	(518,228)	(8.3)	(482,287)	(8.1)
16	管理経費	457,941	7.2	449,315	7.3	442,469	7.5
17	(減価償却額)	(47,692)	(0.8)	(51,650)	(0.8)	(49,737)	(0.8)
18	借入金等利息	26,878	0.4	22,580	0.4	18,282	0.3

19	資産処分差額	662	0.0	76,782	1.2	223,892	3.8
20	徴収不能引当金等	1,962	0.0	1,696	0.0	439	0.0
21	消費支出の部 合計	6,250,557	98.6	6,093,521	98.6	6,182,789	104.2
22	当年度消費収支差額	-188,411	-3.0	-1,000,056	-16.2	-794,274	-13.4
23	前年度繰越消費支出超過額	-4,041,459	-63.8	-4,019,565	-65.2	-5,019,622	-84.6
24	翌年度繰越消費支出超過額	-4,019,565	-63.4	-5,019,622	-81.5	-5,813,896	-99.6

(注1) 構成比……No.9「帰属収入合計」に対する比率(単位：%)

### 3 貸借対照表

貸借対照表は年度末における学園の財政状況を明らかにするもので、平成20年度は前年度と比較し、資産は270,300千円の減少、負債は23,203千円の減少となり、差引き247,097千円の自己資金の減少となりました。

#### 【資産の部】

(千円)

No.	科 目	18年度決算額	構成比	19年度決算額	構成比	20年度決算額	構成比	対前年比増減
1	固定資産	21,531,743	87.0	22,045,108	86.3	21,695,958	89.6	-350,150
2	(有形固定資産)	(17,427,232)	(70.4)	(18,001,021)	(73.4)	(18,381,766)	(76.0)	380,745
3	(その他の固定資産)	(4,104,511)	(16.6)	(4,044,087)	(12.9)	(3,314,192)	(13.7)	-729,895
4	流動資産	3,205,638	13.0	2,427,419	9.9	2,506,269	10.4	78,850
5	(現金・預金)	(1,548,900)	(6.3)	(1,692,164)	(6.9)	(1,793,869)	(7.4)	101,705
6	(未収入金・有価証券等)	(1,656,738)	(6.7)	(735,254)	(3.0)	(712,400)	(2.9)	-22,854
7	資産の部 合計	24,737,381	100.0	24,472,528	100.0	24,202,228	100.0	-270,300

#### 【負債・基本金・消費収支差額の部】

No.	科 目	18年度決算額	構成比	19年度決算額	構成比	20年度決算額	構成比	対前年比増減
8	負債の部	4,721,403	19.1	4,387,368	17.8	4,364,165	18.0	-23,203
9	(固定負債)	(3,122,660)	(12.6)	(2,976,544)	(12.1)	(2,905,847)	(12.5)	-70,698
10	(流動負債)	(1,598,743)	(6.5)	(1,410,823)	(5.7)	(1,458,317)	(6.0)	47,494
11	基本金の部	24,035,544	97.2	25,104,781	102.6	25,651,959	106.0	547,178
12	消費収支差額の部	-4,019,565	-16.2	-5,019,622	-20.5	-5,813,896	-24.0	-794,274
13	負債・基本金・消費収支差額の部 合計	24,737,381	100.0	24,472,528	100.0	24,202,228	100.0	-270,300

(注1) 構成比……No.7「資産の部合計」に対する比率(単位：%)

### 4 財務比率

#### 【貸借対照表関係比率】

No.	科 目	算式	16年学園	17年学園	18年学園	19年学園	20年学園
1	流動比率	(流動資産÷流動負債)	176.3%	206.9%	200.5%	172.0%	171.9%
2	固定比率	(固定資産÷自己資金)	107.6%	108.4%	107.6%	109.7%	109.4%
3	総負債比率	(総負債÷総資産)	20.5%	19.7%	19.1%	17.9%	18.0%

4	負債比率	(総負債÷自己資金)	25.8%	24.5%	23.6%	21.8%	17.9%
5	消費収支差額構成比率	(消費収支差額÷総資金)	-13.5%	-16.3%	-16.3%	-3.5%	-5.0%
6	自己資金構成比率	(自己資金÷総資金)	79.5%	80.3%	80.9%	84.6%	111.0%
7	前受金保有率	(現金預金÷前受金)	174.2%	171.4%	182.3%	226.8%	240.3%

(注1) 自己資金…基本金+消費収支差額

(注2) 総資金…負債+基本金+消費収支差額=総資産

#### 【消費収支計算書関係比率】

No.	科目	算式	16年学園	17年学園	18年学園	19年学園	20年学園
8	学生生徒納付金比率	(学生生徒納付金÷帰属収入)	71.4%	75.2%	73.8%	73.6%	73.0%
9	人件費比率	(人件費÷帰属収入)	69.0%	69.8%	65.1%	64.6%	65.2%
10	人件費依存率	(人件費÷学納金)	96.6%	92.8%	88.3%	87.8%	89.3%
11	教育研究経費比率	(教育経費÷帰属収入)	23.8%	25.9%	25.8%	25.3%	27.4%
12	支払利息比率	(支払利息÷帰属収入)	0.5%	0.5%	0.4%	0.4%	0.3%
13	消費支出比率	(消費支出÷帰属収入)	101.3%	103.3%	98.6%	98.9%	104.2%
14	消費収支比率	(消費支出÷消費収入)	122.8%	110.7%	103.3%	119.6%	114.7%
15	基本金組入率	(基本金組入額÷帰属収入)	17.5%	6.7%	4.3%	17.4%	9.2%
16	減価償却費比率	(減価償却額÷消費支出)	7.2%	8.2%	9.2%	9.4%	8.6%

#### 第4章 平成21年度の具体的施策

平成21年度の具体的施策としては、名古屋キャンパス第二次整備事業と三大学統合の準備作業が第一に挙げられます。学生及び教員により良い教育研究環境を提供することを目的として、建築時期の古い校舎や耐震診断結果に問題のある校舎等を一新させ、受験生に選ばれる大学に変貌を遂げるべく、名古屋キャンパスでは「第二次整備計画」を実施することが平成18年10月開催の理事会で承認され、それを受け、平成19年度より「名古屋キャンパス第二次整備事業」の建築工事が開始されました。期間は平成23年度までの足掛け5年間で、全体の工期を5つに区分し、うち第1期と第2期工事が平成19年度に着工、平成20年度末までに竣工を迎えております。

第1期工事は、次の第2期工事前の前提ともなる「F号館仮設食堂の改修」「F号館仮設教室（音大オペラ実習室）の改修」「旧行善閣（旧本部棟）仮設教室（音大ジェゴッグ実習室）の改修」等を含み、既に平成19年度に竣工済み。

第2期工事は、第二次整備事業の中心的建物の一つである「博聞館」の新築工事を主軸に、その前提工事である「F号館東側一部解体工事」と「旧大学食堂解体工事」を含んでいます。平成19年度に前提工事の部分は全て済ませた上で、「博聞館」の基礎的部分までが進められ、その後の本格的工事が平成20年度に進められ、平成20年の秋に、竣工いたしました。

第3期工事は、名古屋音楽大学新館B（仮称）と同朋学園学生食堂、それに同朋大学附属同朋幼稚園の新園舎建築工事が含まれ、平成20年度にはそれらの工事の前提となる「同大B・音大D号館」「音大E号館練習棟」「音大B号館」等の取り壊しを実施しました。平成21年度中に建設が開始され、年度内に完成する予定となっており、幼稚園園舎増築が本年9月、新学生食堂新築が11月、音大新館B（仮称）が平成21年度末に竣工を迎える予定です。資金的には、造形移転以前の計画で総工費34億円規模。学園将来に向け積立てた基金的性格の資金を投入しての、言わば「背水の

陣」の大事業であります。

更に「三大学統合」問題で名古屋造形大学を「造形学部」として名古屋キャンパスに統合することが平成 20 年 12 月理事会で承認されたことから、「造形学部」の受け皿としての新校舎建築準備が急がれます。今後、計画の理事会承認を得て、平成 22 年度に着工、平成 23 年度に竣工を目指すこととなります。

もう一つの重要な事業、「三大学統合」については、平成 18 年 12 月開催の理事会で「平成 24 年 4 月開学に向けて、文部科学省との相談を含め、同朋学園の三大学統合に係る検討開始」との承認を得たことに続いて、2 年後の平成 20 年 12 月開催の理事会にて、「小牧キャンパスの名古屋造形大学を『造形学部』として名古屋キャンパスに統合し、名実ともに 1 大学として名古屋キャンパスに 1 人の学長のもと、新大学を設立する」ことが承認。それらを受け、より具体的な準備に着手するため、平成 21 年 1 月には、学園本部内に「新大学設置準備室」を設置。平成 21 年 4 月より「室長」を置いて、本格的に活動を開始します。今後は、三大学の若い先生方により「新大学教育プログラム編成プロジェクト」を理事長の諮問機関として立ち上げ、文部科学省相談開始の本年度秋までに、新大学の教育の骨格について成案を目指します。

平成 21 年度に実施するその他の事業は、概ね次の通りです。

- ① 平成 20 年度から 2 年間に亘り、理事長の予算執行権限と理事会の経営力の強化を含む「学園ガバナンスの確立」と、学園全体の消費収支における帰属収支差額の黒字化に向けて、具体的事業計画に裏打ちされた「数値目標の設定」を中心に据えた、「予・決算上の諸改革」を実施。平成 21 年度当初予算（案）では、改革 2 年目に入り、「学園内部監査室」を設置する等、2 年間の改革の後半として改革の完成に向かう取組みを力強く実施します。
- ② ①でふれた「予・決算上の諸改革」とは、以下の内容を指します。
  - i) 黒字予算化の徹底
  - ii) 学園ガバナンスの確立
  - iii) 具体的な数値目標の設定
  - iv) 人件費等の継続的な見直し
  - v) 予算ヒアリング改革
  - vi) 内部監査室の設置
  - vii) 積極的「外部資金導入」への取組み
  - viii) 「文部三表」の考え方の踏襲
  - ix) 計画的積立金の改革
- ③ 大学教員評価制度検討委員会並びにその作業部会を設置し、平成 20 年度 1 年かけて検討を進めてきた「教員評価制度」は平成 20 年度末までに一応の制度設計を完了したことから、平成 21 年度は従来の委員会を終了し、新たに設置する「大学教員評価制度委員会」並びに「大学評価実行委員会」を設置の上、大学教員評価制度の試行実施を行います。また、職員評価制度についても、職員研修プログラムの実施を受けて、具体的な制度設計を進めます。

その他、同朋大学の介護福祉士コース設置初年度の取組、名古屋音楽大学の一学科制定着への取組、名古屋造形大学の一学科制導入 2 年目の取組等、各機関ともに特色ある教育研究体制の一層の充実に向け、様々な事業を計画し、取組んでまいります。今後は、どの機関も、それぞれに学生・

生徒確保に真剣に取り組み、体力の充実を図りつつ、三大学統合への準備・検討に拍車をかけていきたいと思っています。